

3 ポスター発表資料について

研究部

1 目的

授業改善公開授業の研究内容を校内で発表・共有し、経験値を充実させることを目的に実施した。

2 日時・場所

令和6年2月2日（金） 15：30～17：00 多目的ホール

3 内容

	グループ	教科（授業名）	授業内容
1	AB低	集団自立活動	つなひき
2	AB高	みる・きく・つたえる （国語・算数）	夏祭り
3	C低	集団自立活動	かくれんぼをしよう
4	C高	生活	季節について考えよう（秋）
5	中DE	みる・きく・つたえる （国語・数学）	やさいさん
6	中FG	国語	いろいろな標識・表示
7	高DE	自立活動（からだ）	リラクセーション
8	高FG	理科	ものの溶け方

※ 各学習グループで、授業改善公開授業で実施した授業内容や成果、改善点について下記掲載のフォーマットに取りまとめるうえ、各グループ10分程度で授業動画をスライド画面に映しながら発表を行った。

全7時間

本時5時限

児童生徒の実態

（1年生3名、2年生3名、3年生1名の計7名）

・表情や発声、身振り等で思いを伝え、指導者の支援で活動する児童や簡単な指示を理解し一人で行動することが目標である児童などが在籍している。

教材・教具

①綱と紐スイッチとiPadと電子黒板がつながっている。



②たるんでいる紐スイッチの紐をたぐりよせ、引っ張られることで左画面の「おーえす！」から「やったー！」の画面に切り替わるようになる。



③綱に光る玩具（目的物）を取り付けてい



キャリア教育の目標(集団参加)に向けて、工夫した点

- ・目的物を各児童にとって魅力的なものになるようにする。
- ・ルールを理解できるように繰り返し行う、電子黒板や写真カードを使う等でわかりやすいようにする。
- ・電子黒板を使うことや教員が身振りや言葉かけを積極的に行い、つなひきや勝敗、応援等の楽しい雰囲気作りをする。例えば、紐スイッチを活用し、綱とともに引かれることで入力し、電子黒板の画面表示が変換することでゲームの終了がわかりやすいようにする。

授業の様子

- ・繰り返し行うことで、綱の端まで移動することや一人で綱をたぐり寄せていくことが言葉かけによってできるようになった。また、画面が変わるとゲームが終了するというルールが理解でき、綱から手を離すことができるようになった。
- ・教員と一緒に綱をたぐり寄せることによって、綱に取り付けた光る玩具（目的物）が近づくことを意識できる様子が見られた。

概念化シート作成後の気づき・その後の授業に生かしたこと・その他活用できたこと

- ・電子黒板や紐スイッチ等を使うことで、終わりや始まり、雰囲気作り等、児童にわかりやすく伝えることができているというコメントが多くあった。教員の言葉かけだけでなく、効果音や画面の切り替え等を使うことの良さを再確認した。
- ・たぐり寄せた綱が一方の児童に集まることで勝敗を決めるようにし、綱がどちらの児童にあるかや綱が集まっている方が勝ちであることを児童に質問していたが質問の意図を理解することが難しいのではというコメントがあった。5回めの授業だったがまだ難しい様子だったので、目標設定の変更について、勝者の写真を画面に映す等、わかりやすくするとよいということを話し合った。今後を生かしていきたい。

金魚すくいをしよう(数えてみよう)

小学部・AB高グループ

全4時間

本時4時限

児童生徒の実態

【人数】

AB高グループ(火曜日チーム)

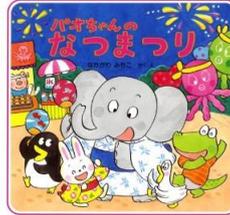
4年生2人、5年生1人、

6年生3人※当日一名装具診のため欠席

【集団の特性】

・AB高グループの中では、「みる・きく・つたえる」の基礎的な力を付けたいメンバーが集まるチーム。・情緒面で不安定になることがある児童が数名おり、発作などの体調不良で気持ちを十分に表出できない児童もいる。・体験活動などを通して、絵本の内容などをイメージできるようにしている。

教材・教具



絵本

『パオちゃんのなつまつり』

- ・金魚(セロハン、ティッシュ)
- ・ぼい(市販のもの・うちわ・既製の輪っかに磁石を付けたもの)・フープ(金魚の池)
- ・すくった金魚を入れる器・歌詞カード
- ・太鼓・ばち・綿(綿菓子の見立て)
- ・iPadアプリ「Keynote」
(金魚を数える画像...タップすると金魚が出てくる。)

キャリア教育の目標(集団参加)に向けて、工夫した点など

- ★金魚の数を皆で一緒に数唱できた。
- 太鼓や音楽を用いて楽しい雰囲気を作り、児童の自発的な集団への参加を促した。
- 金魚すくいの活動・盆踊りの活動は、友だちが活動する様子が見えやすいようにした。

授業の様子

当日の様子

- ・どの児童も情緒面、体調面が大きく崩れることのない状態で参加できていた。
- ・絵本の読み聞かせの活動では、金魚の模型を目で追ったり、綿菓子の見本を触ったりしながら、テレビモニターにも意識を向けることができていた児童が多かった。太鼓の音に笑顔になる児童もいた。
- ・指導者と一緒にポイを使って金魚をすくうと、その金魚を追視する児童や、直接手で積極的につかむ児童がいた。
- ★数唱は、タイミングは違えど声を出したり、笑ったりする児童がいた。
(・大型テレビの様子を見たり、指導者が数唱する声を聞いたりしていた。)
- ・盆踊りは、指導者と一緒に手を動かすと、させられている感の表情の児童や、笑顔になる児童がいた。

概念化シート作成後の気づき・その後の授業に生かされたこと・その他活用できたこと

- ・児童とのかかわり方について良い点を挙げてもらえたので、今後の授業でより強化しようと意識しながら授業を行えている。
- ・次の授業に向けて、授業での児童の反応などを見たとうえで教材の改善点を少しずつ見つけ、改良していること。

全6時間

本時5時限

児童生徒の実態

- ・小学部C低グループ
(1年生2名 2年生3名 3年生1名)
- ・本グループの児童は、言葉や身振りを使って指導者や友だちとある程度コミュニケーションをとることができる。
- ・2、3年生は、簡単なルールのある活動を何度か経験している。
- ・順番を決めて、順番を守りながら活動に参加できる。

教材・教具

- ・くじ引き、ビブス、電子黒板、写真カード、隠れる物(段ボール・布・机)



キャリア教育の目標(集団参加)に向けて、工夫した点など

集団参加ができつつある児童たちなので、興味関心を引きやすい遊びを設定した。簡単なルールになるようにルールを簡略化し、ルール以外で児童が混乱しないように鬼決めなどは指導者が中心になり役決めを行った。指導者に助けを求められるように言葉がけの回数を徐々に減らしていった。

授業の様子

当日の様子

- ・全6時間中5時限の授業ということもあり。どの児童も見通しをもって参加できた。
- ・ルール理解にばらつきがあるので、毎回の授業でルールの確認を行ったことで落ち着いて参加していた。
- ・役割が2パターンに分かれることに対する混乱がなく、くじで決まった役割のルールを守っていた。
- ・前時に行った隠れる時のポイントを思い出し、隠れる場所を見つけて全身が隠れるように上手に隠れている児童が見られた。
- ・「手伝って」と指導者に要求できる児童が増えた。
- ・児童への振り返りで自分なりに振り返りができていた。

概念化シート作成後の気づき・その後の授業に生かされたこと・その他活用できたこと

- ・教材(隠れる物)が簡単な児童がいたのではないかと教室の狭さ、教材(隠れる物)を増やしたほうがよいなど、環境設定の意見があった。初めてのかくれんぼということだったのであえて教室という狭い空間でルールを覚えるということを中心に環境設定を行った。今回で、ルールの理解ができたので今後少し広い環境で設定ができるのではないかとと思う。
- ・現段階として自分で困りに気付ける児童と「困ったことがあったら教えてね」の言葉がけで助けを求められる児童がいる。今回の授業までに言葉かけを徐々に減らしていったがまだ多いように感じられた先生もいらっしまったので、今後の言葉がけにいかしていきたい。

全4時間

本時4時限

児童生徒の実態

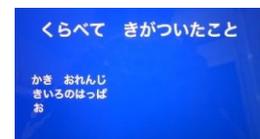
・小学部C高グループ
(4年生1名・5年生3名・6年生2名)

集団の特性など

・友だちや指導者と関わるのが大好きであり、休憩時間には楽しそうに会話している姿が見られる。授業では、発表を求められると積極的に手を挙げる児童や、注目されると不安を感じ緊張してしまう児童がいる。

教材・教具

- ・使用した教材教具の紹介(写真可)
- ・一人一台端末 / アプリ「keynote」
書画カメラ(対象児童が欠席のため未使用)
大型テレビ



キャリア教育の目標(集団参加)に向けて、工夫した点など

- ・前時にみんなで公園に行き、気になった葉や花の様子を一人一台端末を使用して記録した。記録した写真を学校で一人ひとり確認した。
- ・1年を通して、授業の流れは同じにして各単元の学習を行っている。授業に対して見通しを持ち、学習に取り組めるようになってきた。
- ・児童生徒の実態に応じて一人一台端末もしくは画用紙を用いて、調べたことをまとめる作業をみんなで取り組んだ。まとめたものを、授業で披露して感想などを伝えることもした。

授業の様子

当日の様子

- まとめる作業は2次でも行っていたので作業の見通しをもって参加していた。
- 作業する時間を示したので一人一台端末のタイマーを使用したので、時間を意識することができた。
- 写真を選ぶ作業は前時に行ったので貼りつけするだけであり集中して取り組んでいた。
- まとめ作業の最後のページに文字入力をする項目があったが、想定以上に時間を必要とした。

概念化シート作成後の気づき・その後の授業に生かされたこと・その他活用できたこと

- ・最後のまとめ部分のところで、冬になったら葉や花はどうなるのかという発問をしたものの、児童に予想を聞くことを失念していたので気をつけたい。
- ・板書に本時の目的を書くことを失念した。今後は板書計画を作りたい。

やさいさん

中学部・DEグループ

全8時間

本時8時限

児童生徒の実態

- ・中学部1～3年、DEグループ10名
- ・簡単な指示を理解し言葉に応じることができる生徒や、他者からの関わりに対し自分の意思を表情や身振りで表現し応じることができる生徒、主に触覚を通し触れ合うことで状況を把握し自分の意思を表情や身振りで表現できる生徒等があり、発達段階は様々である。
- ・繰り返し学習を行うことで、活動に慣れ親しみながら学習に参加できる生徒が多い。

教材・教具

- ・電子黒板
- ・タブレット端末
- ・CDプレーヤー
- ・すず
- ・長机



- ・大型絵本「やさいさん」

- ・野菜、土の模型



- ・模型を入れる木箱



キャリア教育の目標(集団参加)に向けて、工夫した点など

- ・全体を通して、意欲を促す言葉かけや状況把握がしやすいような言葉かけを密に行いながら支援にあたった。
- ・単元の中で同じ内容の学習を繰り返し行った。→ 授業内容に見通しを持ち、落ち着いた様子で他者を意識し、コミュニケーション等の関わりを受け入れながら活動に取り組むことができるよう図った。

授業の様子

当日の様子

- ・絵本の読み聞かせでは、教員と絵本をめくって声を出して笑ったり、「めくりたい人」という問いかけに対し声を出して手を挙げたり等、コミュニケーションを取りながら表情や発声・身振り等で意思を表出できていた。
- ・絵本の追体験では、野菜に注目して自ら引っ張ったり、野菜が手に触れると手を動かしたり等、意欲的に具体物に働きかける様子も見られた。
- ・単元の初め頃では追体験の際に見通しが持てず活動に取り組むことが難しかったが、本時では、初め頃よりも落ち着きを見せ、自分で具体物を動かし追体験に取り組むことができるようになった生徒もいた。

概念化シート作成後の気づき・その後の授業に生かしたこと・その他活用できたこと

- ・絵本が小さく見えにくそうなので電子黒板に映したほうが良いという意見や、実際の絵本を使うことで、近くで見て自分でめくれる特別感があり注目度を高めていて良かったという意見をいただき、見せ方一つをとっても様々な観点があると気づいた。今後読み聞かせをする際は、多角的な視点から絵本の見せ方を検討していきたい。
- ・一人ひとりの活動時間が短く、友だちの活動を見て待つ時間が長く感じるという意見をいただき、活動方法について以前よりも意識し工夫しながら授業計画を立てるようになった。

全13時間

本時6時限

児童生徒の実態

- ・中学部 1年生2名、2年生2名の計4名
- ・言葉やジェスチャーによるコミュニケーションが可能であるとともに、言葉による指示理解もできる。
- ・知っている事物や場所、物に関する問いかけには、積極的に取り組むことができる。
- ・授業の中で気になることや質問があれば、指導者に尋ねる姿が見られる。

教材・教具

①標識や表示、案内板の正しい意味を選択する3択のクイズで、電子黒板にタッチし、選択すると正解、不正解の音が鳴る。



②標識や表示、案内板の写真やイラストを見て、意味を予想し、検索する。検索する際に、使用できそうな言葉を提示することができる。



意味を予想しよう

③授業で出てきた標識や表示、案内板が順番に出てくる。



復習しよう

キャリア教育の目標(集団参加)に向けて、工夫した点など

- ・繰り返しiPadを用いて検索を行う。
- どのような言葉で検索することができるのか理解し、回数を重ねるごとに検索がスムーズになっていた。
- ・困ったときは声をかけるよう毎回言葉かけを行い、キーワードなどを提示する。
- 困ったときに周りの指導者に声をかけることができる回数が増えた。

授業の様子

当日の様子

- ・標識や表示、案内板の写真を見て正しい意味を選択する活動で、以前間違えてしまっていた問題について正しい意味を選択することができていた。
- ・写真をヒントに、標識の意味を予想することができていた。
- ・標識の写真から得たヒントをもとに、検索するとき使用する言葉を考えることができていた。
- ・復習では、繰り返し学習している標識や表示、案内板の意味について積極的に標識の名前、意味を答えることができていた。

概念化シート作成後の気づき・その後の授業に生かしたこと・その他活用できたこと

- ・生徒の手元にiPadがある状態で指示を行ってしまい、一人ひとりに再度指示を行うことになってしまっていたため、iPadを一度回収する、もしくはiPadを閉じるなど具体的な指示をしてから次の指示を伝える必要があった。
- ・一人ひとりICTを使用しているため、お互いの意見の共有ができていなかったため、画面共有機能などを用いることで、お互いの意見や検索過程を見て、参考にすることができたのではないかと。

リラクゼーション(主に手浴)

高等部DEグループ

全5時間

本時2時限

児童生徒の実態

- ・1年生5名、2年生3名、3年生2名の計10名。
- ・10名のうち、8名が車椅子や座位保持椅子、PCウォーカー等の移動補助具を使用しており、2名は独歩が可能な生徒。
- ・表情や発声による表出が可能な生徒、単語により要求などができる生徒、教師からの問いかけに簡単な言葉で応じることができる生徒など、認知、コミュニケーション面でグループ内での幅が広い。

教材・教具



キャリア教育の目標(集団参加)に向けて、工夫した点など

- ・お湯の感触や温かさを感じながらリラックスできる環境をつくることで、より落ち着いた状態で他者と触れ合い、他者からの働きかけを受け入れつつ、様々な刺激を感じたり他者とのコミュニケーションをとったりすることをねらいとした。
- ・お湯の入った桶に手を浸ける事を拒否する生徒に関して、温タオルで手を温めながらコミュニケーションをとるなどで対応した。

授業の様子

- ・アロマの香りを選択する際、生徒を一人指名し、iPad上でタッチすることにより選択することができた。
- ・比較的、リラックスして落ち着いた様子で授業を受けることができた生徒が多かった。
- ・桶に手を入れようとしなない生徒は数名みられたが、温タオルなどで対応し、全員が活動に参加することができた。

概念化シート作成後の気づき・その後の授業に生かされたこと・その他活用できたこと

- ・指導者の良かった点として、主担者の元気な声による明るい雰囲気や、高等部の先生方の優しい言葉かけや一体感など挙げてくださっていた。普段はあまり聞くことのできない他学部からの意見により、自分達の指導に自信が持てた。
- ・各改善点により、意識しなければならないところ、改めるべきところを再確認できた。

全12時間

本時8時限

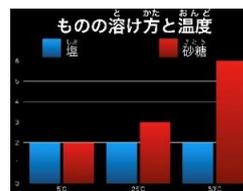
児童生徒の実態

本学習グループは2年生1名、3年生1名の2名であり、知的障がい者である生徒に対する教育を行う特別支援学校〔理科〕1段階の目標及び学習内容を設定している。

抽象的な事柄に対してイメージが持ちにくい、具体物を提示するなど視覚支援により、理解を深めることができる。また、主体的に学ぶ姿が見られ、理科の授業では、興味・関心を持って学習することができている。本単元は日常生活においても触れる機会があり、比較的イメージしやすい単元であるが、溶けているものを取出す「再結晶」など日常で出くわす場面が少ない事柄を理解するのは易しくないため、

教材・教具

・使用した教材教具の紹介(写真可)



<実験結果>				
溶ける場合は○、溶けない場合は×	1	2	3	4
5°C	○	○	○	○
25°C	○	○	○	○
50°C	○	○	○	○



キャリア教育の目標(集団参加)に向けて、工夫した点など

自分で資料等を参考にして手順に従って実験を進める「計画実行能力」や得られた実験結果から授業冒頭で提示された課題の答えを考え、自分で問いの答えを見つけ出す「課題解決能力」、友だちと適宜話し合いや相談をしながら学習や実験を進める、また実験の考察を行い「コミュニケーション力」を養うこともキャリア教育的なねらいとした。

授業の様子

当日の様子

- ・ICT機器を必要に応じて活用することにより、実験手順を自分で確認しながら主体的に活動に取り組むことができ、教科の面白みや課題解決を体験させることができたように思う。
- ・授業冒頭に本時の目標を提示することにより、実験や学習から最終的に何を学び取るのか見失うことなく進めることができたと考えている。
- ・実験結果を事前に予想し話し合うように計画していたが、そこに至るまでに時間を要してしまい予想した結果を生徒同士で十分に共有し合うまでできなかった。

概念化シート作成後の気づき・その後の授業に生かしたこと・その他活用できたこと

モニターとして活用しているTVと併用しているホワイトボードの使い分けについて、どのように使い分けをしているのか質問があった。常に見て確認して欲しいものはホワイトボードに、説明をする際にTVを活用しているが、生徒にとってどちらに注目するのかわかりにくい場合があるかと思うので、生徒の混乱をより少なくできるような工夫が必要であると感じた。